平成11年度

教育研究員研究報告書

幼稚園

東京都教育委員会

平成11年度

教育研究員名簿

地区名	幼稚園名	氏名
千代田	番町	竹山　朋江
中央	月島第一	○ 高橋　和代
港	南山	久保寺　節子
新宿	花園	加納　京子
文京	湯島	○ 井上　米子
台東	大正	鈴木　かおる
江東	ちどり	◎ 松原　淳子
品川	八潮わかば	鈴木　雅子
世田谷	砧	古川　由紀子
渋谷	鳩森	藤井　直子
北	じゅうじょうなかはら	松澤　成子
日野	第一	村本　奈緒子

◎ 世話人　　○ 副世話人

担当　教育庁指導部初等教育指導課指導主事　高木　基行
東京都立教育研究所幼児教育部幼児発達研究室指導主事　永井　由利子

目　　次

Ⅰ　**主題設定の理由**………… 2

Ⅱ　**研究方法**………… 2

Ⅲ　**研究内容**

1　主題のとらえ方と幼児の発達をとらえる観点………… 3

2　事例研究

(1)　3歳児

事例1　気に入った遊具や素材に触れて遊ぶことを楽しむ事例（6月）………　5

事例2　遊びの中で互いに自分の思いを実現しようとした事例（10月）………　8

(2)　4歳児

事例3　生活の流れの中で自分の思い通りにならないことがあることを感じた事例（6月）………１０

事例4　友達の遊びに関心をもち互いに交流しながら遊んだ事例（10月）……１３

(3)　5歳児

事例5　友達と互いに考えを出し合って遊びを進めていった事例（6月）……１５

事例6　友達から刺激を受け自分の課題に挑戦していった事例（9月）………１８

Ⅳ　**まとめと今後の課題**

1　発達に応じた教師の役割

(1)　3歳児………１９

(2)　4歳児………２０

(3)　5歳児………２１

2　今後の課題………２１

資料【発達の姿】………２２

研究主題

集団とのかかわりの中で、自分で考え、行動する幼児を育てるための教師の役割

Ⅰ 主題設定の理由

幼児は、生活や遊びの中での具体的な体験を通して、自分なりに考えて様々なことを自分の力でやってみようとする態度を身に付けていく。また、様々な友達との触れ合いの中で協力する楽しさやつまずき、葛藤を体験し、よいことや悪いことに気付き、考えながら行動したり、相手の心に共感したりできるようになる。

しかし、現在の幼児を取り巻く環境をみると、人とのかかわりが希薄になり、具体的体験の機会が減少しているため、自分の感情をうまく表すことができなかったり、自立して行動できなかったりするなどの幼児の姿がみられる。幼稚園は集団とのかかわりの中で様々な体験のできる生活の場である。幼児が主体性や社会的態度を身に付けていく上で、幼稚園教育のもつ意義はますます大きくなっている。

そこで、幼児が集団とのかかわりの中で、自分で考えて行動するようになっていく発達の姿をとらえ、発達を促す環境の構成や教師の援助など、教師の役割はどうあったらよいかを明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

Ⅱ 研究方法

研究主題

集団とのかかわりの中で、自分で考え、行動する幼児を育てるための教師の役割

⇩

研究のねらい

幼児が集団とのかかわりの中で、自分で考え、行動できるようになっていく発達の姿をとらえ、幼児の発達を促す環境の構成や教師の援助など、教師の役割を明らかにする。

⇩

研究の方法

○主題のとらえ方や主題にかかわる幼児の姿を共通理解する。

○事例研究をする。（「個をとらえる観点」と「集団をとらえる観点」から分析、考察し、教師の役割を導きだす）

○入園から修了までの幼児が集団とのかかわりの中で、自分で考えて行動するようになっていく発達の姿を検討する。

○発達の姿に即した教師の役割を考察する

⇩

まとめ

○自分で考え、行動する幼児を育てるための教師の役割

○集団とのかかわりの中で、自分で考え、行動する幼児の発達の姿（資料）

Ⅲ 研究内容

1　主題のとらえ方と幼児の発達をとらえる観点

私たちは、主題の「集団とのかかわりの中で、自分で考え、行動する幼児」とは、「周囲の状況を判断し、生活に見通しをもち、今何をしたらよいかが分かる」「自分の気持ちが相手に伝わるように表現したり、相手の気持ちを受け入れたりする」「自分の課題に向かい、試行錯誤しながら最後まで取り組む」「友達と競い合ったり、教え合ったりしながら互いのよさを生かし協力しようとする」姿であると考えた。

幼児は、友達や教師、物、自然など周囲の環境とかかわって、幼稚園での遊びや生活を進めている。その中で、友達の姿や園内の物や場、空間の様子、生活の流れなどを受け止め、様々なことに気付きながら、周囲の状況から自分なりに考えて判断している。そして、自分の気持ちを友達や教師に言動で表現したり、試行錯誤を重ねながら興味や関心をもったことに取り組んだり、行動に表している。このような判断と行動を繰り返しながら、快感情や不快感情を味わい、幼稚園という集団生活の場への安定感や人への信頼感などがはぐくまれていく。

そこで、集団とのかかわりの中で自分で考え行動する幼児を育てていくために幼児の発達をとらえていく観点として、それぞれの幼児が、集団生活の中で友達の姿や園内の物や場、空間の様子、生活の流れなど周囲の状況をどう受け止めているかという「状況のとらえ方」、友達や教師に対して自分の思いをどのように表しているか、また、興味や関心をもったことを環境にどのように働きかけているかという「自分の表し方」、この二点を踏まえて、友達や教師とどのようにかかわっているかという「人とのかかわり方」の三点から見ていくことにした。また、集団をとらえる観点として、集団全体としての学級集団等への所属意識、幼児同士や幼児と教師の関係、集団として活動へ取り組む姿はどうかという点から見ていく。

個々の事例について以上の観点から考察するとともに、入園から修了までのおおよその幼児の発達の姿を見通し、個に対してと集団に対しての両面から、集団とのかかわりの中で自分で考え行動する幼児を育てる教師の役割を検討する。

事例研究に当たって、事例１、３、５については、研究保育の記録を基に、学級の一日の活動の流れの中での学級全体の幼児の姿を集団をとらえる観点から分析するとともに、対象児の行動記録から特徴的な姿を取り出し、対象児についての個をとらえる観点及び集団をとらえる観点から考察し、考えられる教師の役割を明らかにした。

事例２、４、６については、各園での実践記録を基に、個をとらえる観点と集団をとらえる観点の両面から考察し、教師の役割を明らかにした。

幼児の遊びや生活のとらえ方と発達をとらえる観点

幼児の遊びや生活

幼　児 ⟷ 友達・教師，物・自然

⇩

多様な体験

- 考える
  - ・受け止める　・分かる　・気付く
- 行動する
  - ・自分なりの表現　・試行錯誤
- 感じる
  - ・快感情　・不快感情
  - ・安定感　・信頼感

（考える ⟷ 行動する ⟷ 感じる ⟷ 考える）

発達をとらえる観点

集団をとらえる観点

個をとらえる観点

- <状況のとらえ方>
  人・物・場・空間
  時間・生活の流れ
- <自分の表し方>
  思いの表し方、興味や関心をもったことへの取り組み方
- 〈人とのかかわり方〉
  教師とのかかわり
  友達とのかかわり

⟷

所属意識，集団での活動への取り組み方
幼児同士・幼児と教師との関係

⇩

発達に即した教師の役割

⇩

集団とのかかわりの中で、自分で考え、行動する幼児

- ・周囲の状況を判断し、生活に見通しをもち、今何をしたらよいかが分かる。
- ・自分の気持ちが相手に伝わるよう表現したり相手の気持ちを受け入れたりする。
- ・自分の課題に向かい、試行錯誤しながら最後まで取り組む。
- ・友達と競い合ったり、教え合ったりしながら互いのよさを生かし協力しようとする。

2　**事例研究**

(1)　3歳児

【事例1】　気に入った遊具や素材に触れて遊ぶことを楽しむ事例（6月）

〈考えられる主な教師の役割〉見守ったり一緒に遊んだりしながら安心してすごせるようにする。

①　学級の一日の活動の流れ

8：45	11：00	11：15	11：30
○好きな遊び	○片付け	○歌，手遊びをする 絵本を見る	○昼食

園庭；フロアカー，フープ，砂遊び　等

保育室；ブロック，積み木，小麦粉粘土，ままごと　等

②　学級の幼児の姿

	幼　児　の　姿	集団をとらえる観点からの分析
好きな遊び	・教師がフープの場にかかわると、何人かが集まり、フープを並べる。教師のまねをして両足で跳ぶなど、友達と触れ合う。 ・天気が良く、砂場や水遊びを楽しむ。感触を味わいながら水の容器を入れ替えたり、ご馳走に見立てたり、同じ場で遊んでいる友達とかかわる。 ・室内では、小麦粉粘土で遊びながら、そばにいる友達とおしゃべりを楽しんだ後、ブロックや積み木、ままごとなどの遊びを始める。	・教師のしていることに興味をもって、自分も同じような動きをして楽しむ。 ・同じ場で同じような動きをしている友達との触れ合いを楽しむ。 ・自分のしたい動きを繰り返しながら友達との触れ合いを楽しむ。
学級全体の活動	・教師が声をかけると喜んで集まり、人形の動きに合わせて歌ったり手遊びをしたりする。 ・気に入った友達と隣になれないため落ちつかない幼児も、教師が人形を動かし始めると興味をもつ。	・教師と一緒に手遊びをしたり、人形を使った歌を聞いたりすることを楽しむ。 ・みんなで集まる時には、思い通りにならないこともあることに気付く。
生活	・教師と一緒に砂遊びの身支度や弁当の準備をする。教師が声をかけると自分でする幼児もいる。	・教師と一緒にする中で、遊びの身支度や弁当の準備の仕方を知る。

③　対象児の記録

幼　児　の　姿	分　析
A児は、砂場で他の幼児が遊ぶ様子をじっと見た後、上靴のまま砂場に入ろうとする。教師が「Aちゃん、先生と一緒に靴を履き替えてこようか。」とそっと声をかけると、すぐに教師と一緒に靴を履き替えてくる。	・砂遊びに関心をもち、砂場で遊びたくなる。 ・教師の「先生と一緒に」という穏やかな言葉かけで靴を履き替えにいく。
道具置き場からシャベルと碗をとり、砂場の空いているところにしゃがみ、シャベルで碗に砂を入れ始める。近くに置いてあった片手鍋を手にとり鍋にシャベルで砂を入れては、手のひらでおさえる動作を何度も繰り返した後、碗を持って水道に行き、碗に水を汲む。もとの場所に戻るとしゃがみ、鍋に碗の水を少しずつ入れてはシャベルでかきまわす。	・砂場道具の置き場所が分かり、自分の使いたい道具を使う。 ・砂の感触や道具を使うことの楽しさを感じ繰り返し楽しむ。 ・水道の場所が分かっている。 ・砂だけでなく水を加えたことによる感触の変化を感じている。
しばらくこの動作を繰り返した後、立ち上がり、その場で言葉に節をつけて歌いながら手足を動かし踊るようにくるくるまわる。その後また、しゃがんで水を鍋に入れてかき回す動作を繰り返す。	・砂と水の感触により心が開放され言葉が歌になり、体も動きだす。
隣で遊んでいたB児に近づき、B児の持っているバケツにシャベルで砂を入れると、二人で顔を見合わせて笑い合う。	・B児に対して、安心して自分からかかわり、B児もまたA児のしたことを受け入れる。
近くに教師が来ると、碗に砂を入れて教師に差し出す。教師が受け取って「全部食べちゃうよ。ごちそうさま。」と言って食べるまねをするのをうれしそうに見る。	・大好きな教師のためにごちそうを作ってあげたいと思い、その気持ちを教師にしっかりと受け止めてもらえるという安心感がある。

《 考 察 》

○A児をとらえる観点から

〔状況のとらえ方〕

- 自分の好きな動作を繰り返し楽しんでいる姿から、自分の好きなことを十分に楽しめる場や時間であることが分かっている。また、同じ場に教師がいることで安心できる場であると感じている。
- シャベルなど気に入った道具を選んで使ったり、たらいから水を汲んだりする姿から砂場道具の置き場所や水道の場所が分かり、だれが使ってもいいということが分かっている。
- 自分の好きな動作を繰り返し楽しむと、まわりの様子に目を向け自分から友達にかかわっている。

〔自分の表し方〕

- 好きな動きを繰り返す中で、砂や水の感触を味わい楽しんでいる姿が見られる。また、言葉に節をつけて踊るような姿から、心が解放されのびのびと自分を出している。

〔人とのかかわり方〕

- 「先生と一緒に靴を履き替えてこよう。」という教師の穏やかな言葉に素直に従っている姿から、A児が教師を信頼できる存在であると感じている。
- A児は、隣で遊んでいるB児に対して自分のしたいと思ったことを素直に出している。B児もまた、A児のしたことを笑顔で受け止め、友達と触れ合う楽しさを感じている。

○集団をとらえる観点から

- 砂場という共通の遊び場や園庭でのフープ遊びの中で、それぞれの幼児は、教師が側にいるということで安心して自分でしたい動きを繰り返し楽しんでいる。いろいろな幼児が集まっている場で幼児が安心して動くことが、他の幼児の存在に気付く機会となると考えられる。
- 教師や友達のしていることに興味をもって見たり、同じようにやってみたりしながら、遊びが広がるとともに人との触れ合いを楽しむようになっている。

〔教師の役割〕

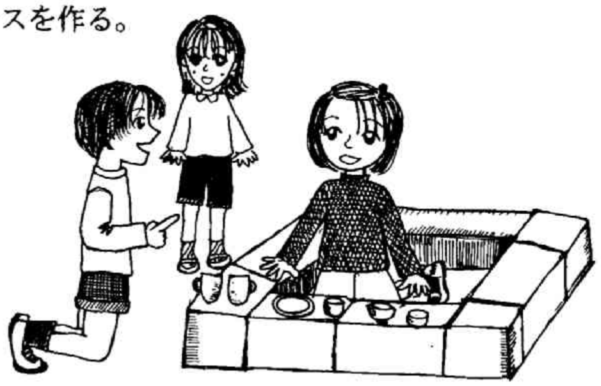
- いろいろな幼児の集まる場では、一人一人の幼児が安心して自分の動きを楽しめるように遊具の数を十分準備するとともに、遊んでいる姿を見守ったり、一緒に遊んで共感したりする。
- 教師は、幼児が安心感や親しみがもてるように、声の大きさや表情を考えて穏やかにかかわり、そのつながりの中で園生活の仕方や約束について知らせていく。
- 解放感を味わいながら自分の気持ちを素直に表現できる感触を楽しめる素材を、かかわってきたそれぞれの幼児が遊べるよう十分な量を準備しておく。
- 「今は、好きなことをして思いきり遊べる時間である。」ということや「この遊具は、みんなが使っていいものだ。」ということを分かりやすく伝えるとともに、遊具の置き場所を一定にし、興味をもったことが楽しめるようにする。

【事例２】　遊びの中で、互いに自分の思いを実現しようとした事例（10月）
〈考えられる主な教師の役割〉それぞれの思いを受け止め、かかわりの楽しさを感じさせる。

保育室で、C児が「ジュース屋さんする。」と言いながら積み木を運んでいると、側にいたD児が「私も作るの。」と言って、C児と同じ場に積み木を運び始める。C児が「じゃあ一緒につくろうか。」と言うと、D児はうなずく。二人でしゃべりながら積み木を運ぶ。場ができると、C児は製作コーナーに行き、カップに色紙を入れたジュースを作り始め、側にいた教師が表情豊かに「おいしそうね。」と言うと、「ジュース屋さん。」と答える。

しばらくして、C児は積み木で作った場にD児が布団や人形を運び込んでいることに気付き、大声で「だめえ、私のジュース屋さん。」とD児に言う。D児は、その声に振り返るが、何も言わず遊び続ける。C児は、何度も「ここはジュース屋さん。私が作ったの。」と泣きそうな顔で言うが、D児は「だって、ここおうちなんだもん。」と答える。

側で、別の積み木の家を作って人形で遊んでいたE児が、D児に「おうちだもんねえ。」と言い、二人で顔を見合わせてうなずき合う。C児は、怒った顔でじっとD児を見ていたが、「私のなんだから。」と言い、その場の積み木を別の場所に運び、場を作り直す。
教師が「Cちゃんは、ジュース屋さんなんだ。Dちゃんは、おうちにしたいのね。」とつぶやくように言うと、D児は、黙ってC児を見ていたが、やがてE児の作った積み木の家に入って一緒に遊び始める。C児は、作り直した場にカップのジュースを置くと、にっこり笑って製作コーナーに戻って、ジュースを作る。



《　考　察　》
○C児をとらえる観点から
［状況のとらえ方］
・C児の「ここはジュース屋さん。」という主張を聞いても、D児は自分の動きを変えようとはしない。一緒に作ってはいたが、それぞれが自分のイメージによる自分の場ととらえている。また、C児は自分の思いを遂げるために、相手の思いとかかわりなく場を作り直している。このままでは、自分のしたいことができないと考え、自分なりに「場所を移動する」という解決策をとっているが、相手もこの場で遊んでいる、二人で作った場であるといった状況のとらえ方はまだできない。

［自分の表し方］
・自分の思いや考えを素直に表現しているが、相手に聞かずに積み木を移動するなど、相手の思いには気付かず、自己中心的で直接的な表現である。
・教師が受け止めてくれることを感じると、安心して自分の考えを出している。
〔人とのかかわり方〕
・二人でしゃべりながら、積み木で場を作るなど、友達と同じ場で一緒に動くことを楽しんでいる。しかし、思いどおりにならないと怒り、相手の思いにかかわりなく自分のしたいことを実現しようとしている。
また、D児の人形を持ち込む動きによって、C児は自分のしたいことを改めて確認するとともに、D児の思いに気付いていくきっかけにもなると考えられる。
・教師のつぶやきのような言葉や自分に向けた顔の表情によって、自分の気持ちや考えを分かってくれていると感じている。
○集団をとらえる観点から
・それぞれの幼児が自分のしたい動きを楽しみ、思いを素直に表現している姿から、これらの幼児にとっては、学級の雰囲気が安心して過ごせるものとなっていると考えられる。
また、C児の動きや言葉に対してD児が興味をもってかかわっていること、C児とD児のやり取りへのE児のかかわり方から、側で遊んでいる友達の動きに気付き、かかわろうとする関係ができつつあると考えられる。
〔教師の役割〕
・このころになると、それぞれの幼児が自分なりの思いを出すようになり、周りの友達の様子に関心をもつようになるが、一緒に遊んでいても、それぞれの思いは違っていることが多く、相手の思いには気付かず、自分の思いだけで動く姿が見られる。
そこで、一人一人の幼児の動きや思いをしっかり受け止めていくとともに、それぞれの幼児が自分のしたいことを楽しめるように場を確保したり、遊具の数を調整したりして、安心して自分らしさを出せるようにするとともに周りの幼児の姿や言葉を伝えることで、今後それぞれの幼児が互いの思いに気付いていく芽をはぐくむ。
また、友達に目が向き始めている姿を受け止め、かかわりが楽しめるようイメージがはっきりとらえられるよう素材を提示したり、同じ場でもそれぞれの動きができるよう場の広さを調節したりする。

⑵　４歳児

【事例３】　生活の流れの中で自分の思い通りにならないことがあることを感じた事例（６月）
〈考えられる主な教師の役割〉幼児の思いを受け止めながら周囲の状況を感じさせていく。

①　学級の一日の活動の流れ

8：45 ○好きな遊び
園　庭；虫探し，砂場，ボール，フープ，自転車　等
保育室；製作，ままごと，折紙のあじさい作り，色水　等

11：15 ○片付け　○歌を歌う
絵本を見る

11：30 ○昼食

②　学級の幼児の姿

	幼　児　の　姿	集団をとらえる観点からの分析
好きな遊び	・登園するとほとんどの幼児が園庭に出る。 ・友達と話をしながら、自転車に二人乗りしたり友達の乗っている自転車を押したりする。 ・友達とフープやボールを転がしたり跳んだり、浮輪に見立て泳ぐまねをしたりする。 ・保育室の製作コーナーにある空き箱や紙などの素材を使って友達や先生とお面や武器を作る。 ・教師にごちそうをするなど教師とかかわることで安心して自分なりの動きを楽しむ姿もある。 ・色水に興味をもちクレープ紙を要求する。 ・折紙のあじさい作りに半数近くの幼児が興味をもち、教師に作り方を聞きながら作る。	・自分のやりたい遊びを自分で選んで遊ぶ。 ・自分の思いを伝えながら、友達とのかかわりを楽しむ。 ・教師や友達と同じ場所で遊ぶことや同じ動きを楽しむ。 ・設定された環境や教師の提示したものに興味をもち、自分からかかわる。 ・遊びの場が広がり、違う場で遊ぶ幼児同士のかかわりはほとんどない。
学級全体の活動	・片付けが終わった幼児からいすをコの字に並べて座る。まだ集まらない友達のいすを並べて待つ幼児もいる。 ・教師の歌に合わせて、手遊びをしたり二人組で相手の指を捕まえたりする ・絵本は、自分でよく見える位置に座り、集中して見ている。	・まだ来ていない友達がいることが分かって待っている。 ・みんなで集まって遊んだり絵本を見たりすることを楽しむ。 ・友達と触れ合いながら一緒に手遊びをする楽しさを味わう。
生活	・教師が声をかけ、片付けをする。あじさい作りや色水を始めたばかりで、なかなか片付けを始めない幼児もいる。 ・次への活動に期待をもちながら片付けをする。	・教師の言葉で使った遊具を片付けるが、遊びが気になって、片付けに気持ちが向かない幼児もいる。 ・生活の流れの中で思い通りにならない時があることを知る。

③　対象児の記録

幼　児　の　姿	分　　析
園庭でＦ児はＧ児に自転車を押してもらい、しばらく自転車遊びを楽しむ。自転車を置いて、朝礼台の上に並んで座り、「Ｆちゃん、すごく汗かいた。」「Ｇちゃんも。」などと話す。Ｆ児はシャツを脱ぐと、嫌がるＧ児のシャツも強引に脱がせ上半身は下着一枚になり「見てもらおう。」と教師の方へ走っていくと、Ｇ児も後を追う。	・Ｆ児はＧ児の手助けで自転車に乗れるようになったことが嬉しい。 ・Ｆ児はＧ児と同じ動きや、同じ格好をすることを楽しみたい。 ・Ｆ児は、相手に受け入れられないと強引に行動で表す。 ・Ｆ児は、教師に自分の行動を認めてもらいたい。
二人で保育室に戻るが、Ｇ児は他の友達と遊び、Ｆ児は一人で空き箱製作や色水で遊ぶ。 片付けの時、自分のカバンを見て、突然「先生、私のリングどこ？」と叫び、「早く探してよう、お弁当終ってからじゃいやあ。」と泣き叫ぶ。	・大事にしていたものがなくなり、周囲の状況にかかわりなく、自分の気持ちを泣くことで教師に訴えている。
教師が「片付けが終わってからね。」と言うと、「早く探して。」と地団駄を踏む。教師に「今はＦちゃんのだけ探す訳にはいかないの。」と言われ、泣き叫び続ける。	・Ｆ児は教師に気持ちが分かってもらえないと感じ、泣き続ける。
教師が「絵本を見ますよ。終わったら探しましょう。」と言うとＦ児はうなづき、少し泣き止む。	・Ｆ児は教師の言葉に、気持ちを受け止められたと感じた。
絵本を見るため、椅子に座っても「ねぇ、私のリング知らない？」と周りの幼児に聞く。「知らないよ。」と強い口調で言われると、また大声で泣く。	・Ｆ児は回りの幼児に受け入れられていないことを感じている。
教師が「Ｆちゃんが大事にしていたのね。」と言うが、周囲の幼児は困った顔をしている。	・周囲の幼児はＦ児の悔しい気持ちを感じているが、具体的にどうしたらよいか分からない。
絵本を読み終わった後、教師とＦ児は二人でリングを探しに行く。	

《　考　察　》

○Ｆ児をとらえる観点から

〔状況のとらえ方〕

・遊びに必要な物や場を自分で選んで使うなど、園庭や保育室にどんなものがあるか分かっている。
・一日の生活の流れも分かっているが、不満や不安が強いと周囲の状況が目に入らない。
・自分の思いを通そうとし、相手の気持ちを察したり、考えたりすることは少ないが、相手から受け入れられていないことは感じている。

［自分の表し方］

・教師や自分を受け入れてくれた友達に対しては、自分の思いを言葉や態度で表すことができる。

・自分の思いが強かったり、思い通りにならなかったりすると、周囲の状況や相手の気持ちなどにかかわりなく一方的に自分の思いを出すこともある。

［人とのかかわり方］

・友達が自転車を押してくれたり、一緒に動いたりたりしたことで、かかわる楽しさを感じている。

・友達と同じ動きをしたり同じ物を使って遊んだりすることが楽しいと、もっと同じことをしたいと自分の思いを出すが、相手の気持ちには気付かないことがある。

・自分の思い通りにならないことに不満や不安を感じていると担任の話を聞こうとしないが、担任が自分の気持ちを受け止めると、困った時には何とかしてくれることを感じ、話を聞こうとするようになる。

○集団をとらえる観点から

・一緒に遊んでいる友達に自分の思いを伝えたり、同じ動きを楽しんだりしていることから友達に関心をもち、一緒に遊ぶことが楽しいと感じている。

・Ｆ児の泣いている様子に対して関心をもつなど、学級の友達の様子に目は向いているが、具体的なかかわり方が分からず、自分からかかわるきっかけがつかめない姿もある。

・遊びの場が離れていて、他の遊びの様子が目に入りにくいと、かかわりをもつ機会が少なくなっている。

［教師の役割］

・Ｆ児は、相手の気持ちや周りの状況にかかわりなく、感情や行動を表すことが多いが、友達と一緒に動く楽しさや、友達が受け入れてくれない悲しさを感じている場面もあるので、ゆったりと気持ちを受け止め、友達や教師とかかわって様々な感情を経験する中で自分の気持ちに気付いたり、相手の気持ちを感じていくようにする。
周りの幼児には、Ｆ児の気持ちを伝え、どうしたらよいか一緒に考え、なくしたものを探すなどＦ児への具体的なかかわり方に気付くよう援助し、学級の中で一人一人が大切にされていることを感じられるようにしていくことも必要である。

・一緒に遊ぶ友達に思いを伝える楽しさを感じるようになっているので、遊びの中で互いの思いが伝わるようイメージを具体的に表現できる素材を提示するなどの工夫をする。

・学級全体の活動では、学級の中で友達とのつながりを感じていくように、友達との触れ合いが楽しめる活動を取り上げていく。

・それぞれの幼児が自分の目に入る友達の遊びに関心をもってきているので、互いの遊びの様子が見えるように遊ぶ場を調整し、様々な友達とかかわって遊べる場を設定して、遊びの経験の幅が広がっていくように援助する。

・生活の流れを意識して行動できるように、遊びの姿に応じて片付けのタイミングを工夫したり、次の活動の期待感をもてる働きかけをしたりする。

【事例４】　友達の遊びに関心をもち互いに交流しながら遊んだ事例（１０月）
〈考えられる主な教師の役割〉遊びの楽しさに共感しながら、互いの思いに気付かせていく。

保育室で、Ｈ児は、Ｉ児と一緒に積み木で自分たちの場を作り始める。Ｉ児が、積み木を手に持って、「どこにおけばいいの。」と尋ねると、Ｈ児は「ううん。」と言って考える。Ｉ児が「ここに置こうか。」と言って積み木を置くと、Ｈ児は、「いいね。そこに置こう。」と言ってニッコリと笑う。Ｈ児が積み木を運びながら、「ここ、電車だよ。」とＩ児に言うと、Ｉ児は「緑の電車だね。」と答え、Ｈ児はうれしそうにうなずく。

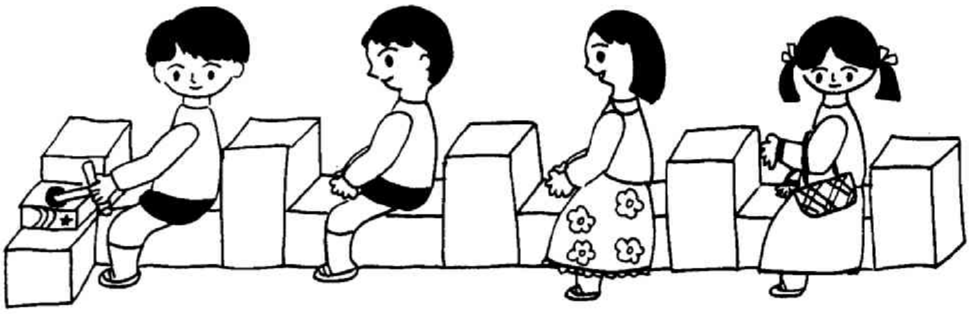
少し離れた場所で家を作っていたＪ児が、「手伝ってあげようか。」と言って積み木のそばにゴザを敷くと、Ｈ児は黙ってゴザを巻く。Ｊ児が「ダメなの。」と聞くと、Ｈ児はＪ児をにらんで拒否する。

教師が「ダメなの。」と聞くと、Ｈ児は「だって、これは電車なんだもん。」と言う。教師が、「電車だからゴザはいらないんだね。」と言うと、Ｊ児が「おうちもいるよ。」と自分のイメージを伝える。教師が「Ｊちゃんは、おうちを作ってくれるところだったんだね。おうちはどうしようか。」と言うと、Ｈ児は、「Ｊちゃんの隣にする。」と笑顔になってうなずく。

電車ができると、Ｊ児と一緒に家を作っていたＫ児が来て、「乗せて。」と言う。Ｈ児は「いいよ。」と言って一番前に座る。Ｋ児が「コンピューター。」と言いながら積み木を指で叩くと、Ｈ児は「違うよ。こうやるの。」と電車の運転レバーを操作するまねをした後、「こういうの作りたい。」と手で示しながら、運転レバーを作りたいと教師に要求する。

Ｈ児は、Ｉ児、教師と一緒に箱と筒で運転レバーを作り、電車の一番前に座る。Ｈ児が「発車します。」と言うと、Ｊ児、Ｋ児と一緒に家にいた幼児も出て来て、電車の座席に座る。Ｈ児は、笑顔で運転レバーを操作する。

ピクニックごっこをしていたＬ児が通りかかり、「乗せて。」と言うと、Ｈ児は、うれしそうに「いいよ。」と言う。「次は、公園です。」とＨ児が言うと、Ｌ児は降りる。その後、他の遊びをしていた幼児も、何回も電車に乗りにくる。



《 考 察 》

○H児をとらえる観点から

［状況のとらえ方］

・遊びに集中し、周囲の幼児が自分のイメージと異なる動きをすると拒否するが、教師の仲立ちにより、周囲の状況にも気付くようになってきている。

［自分の表し方］

・いつも一緒に遊んでいる友達と動く中で、積み木の構成を工夫したり、運転レバーの材料を選んだりして、具体的にイメージを実現しようとしている。
・周囲の幼児が、自分のイメージと異なる動きをすると、態度や言葉で拒否するが、イメージを詳しく言うことはしないので、相手に伝わりにくく、教師の仲立ちが必要である。
・自分の思いを実現するために、教師に必要な物を要求している。

［人とのかかわり方］

・Ｉ児とは、一緒に遊びたいという気持ちが強く、互いの言動を受け止め合って遊びを楽しんでいる。
・周囲の幼児が、自分たちの作った場に興味をもってかかわってくると、自分のイメージを伝え、それが認められれば、遊びに入ることを受け入れ、かかわって遊ぶことを楽しもうとしている。

○集団をとらえる観点から

・３、４人の友達と場を作ったり、イメージを出し合って、かかわりを楽しんでいる。保育室内の他のグループの遊びにも目を向け、興味をもつと素直にかかわろうとしている。
・別の遊びをしている幼児同士は、互いのイメージがはっきりととらえられず、それぞれのイメージで動くが教師の仲立ちで相手のイメージをとらえられるようになると、同じ場でのかかわりを楽しむことができる。

［教師の役割］

・それぞれの幼児が自分なりのイメージがはっきりしてきているので、動きや言葉から具体的なイメージを受け止め、実現できるように一緒に考えたり、イメージに合った材料を提示したりしていく。
・他の遊びをしている幼児にも、自分のイメージを伝えられるように、イメージが伝わるような言葉を引き出したり、言葉を添えたりしながら、友達の気持ちに気付いて一緒に遊ぶ楽しさに共感していく。
・学級の様々な幼児と交流しながら遊ぶ楽しさを味わえるように、互いの状況を知らせ、それぞれの遊びが充実するよう場作りを工夫したり、室内の環境を再構成をしたりする。

(3)　5歳児

【事例5】　友達と互いに考えを出し合って遊びを進めていった事例（6月）

〈考えられる主な教師の役割〉それぞれの幼児の考えを実現し、一緒に遊んでいる友達の考えに気付くようにする。

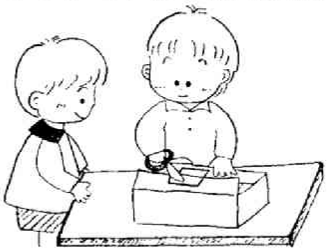
①　学級の一日の活動の流れ

8：45	10：50	11：30
○好きな遊び 園庭；サッカーごっこ 室内；店屋ごっこ、家作り　等	○片付け　○全員でジャンケン鬼をする	○昼食

②　学級の幼児の姿

	幼　児　の　姿	集団をとらえる観点からの分析
好きな遊び	・自分たちでルールを作りながら園庭でサッカーごっこをする。 ・室内ではくじびきや、花や、ヨーヨー作り等、前日の続きのごっこ遊びを仲間と一緒に進める。 ・保育室がいっぱいになったため、ホールで友達とイメージを伝え合いながら、ゲームボックスで家作りをする。	・自分のやりたいことを、好きな友達と始める。 ・友達に自分の思いやイメージを伝えながら遊びを進める。 ・保育室での他の遊びをしている友達の様子を見て、自分たちで遊びの場を考える。
学級全体の活動	・教師がジャンケン鬼をすると声をかけ、幼児と一緒に準備を始める。 ・友達とジャンケンをして、追いかけたり逃げたりすることを楽しむ。 ・2チームの人数の違いに気付いた子どもの声を教師が取り上げ、全員を集める。チームをどのように分けたらよいかを話し合う。	・学級全体でジャンケン鬼をする楽しさを味わう。 ・相手の動きを意識して、追いかけたり逃げたりするスリルを味わう。 ・友達と助け合いながら遊びを進めていく中で、チームの一体感を味わう。 ・ジャンケン鬼の遊び方について考えたことを伝え合う。
生活	・好きな場所で昼食の準備を始めるが、座る席のことでトラブルが起きる。様子を見て、声をかける幼児、かかわりなく自分の準備をする幼児等様々である。	・友達のトラブルにあまり関心をもたない幼児もいる。 ・友達のトラブルに気付き、心配したり自分なりに考えたりする。

③　対象児の記録

幼　児　の　姿	分　　析
M児は前日の続きの『くじびきや』を始めるためにN児と一緒に空いている場に積み木で囲いを作る。くじの箱を作ろうと、空き箱に穴を開けるためにはさみを突き刺すが開かない。目打ちで穴を開け、そこにはさみを差し込む。M児は「これはだめだ。」と言って、別の柔らかい箱と取り替える。N児はM児の隣に座り様子を見ている。 教師が側に来て「M君、何作っているの？」と聞き、隣に座る。M児は「くじの箱！穴を開けるには、どうしたらいいのかな？」とつぶやく。教師は「どのくらいの穴がいいの？」と聞く。M児は「人の顔が見えるくらい。」と手で形を作りながら答えた後、マジックで形を書くことに気付く。穴の大きさを四角く書いてから切り取って作りあげる。	・周りの様子を見ながら、自分たちの場を作る。 ・空き箱に穴を開ける方法を、自分なりに繰り返し試す。 ・箱が固く穴が開きにくいと気付き、柔らかい箱を探す。 ・N児はM児の動きを見守りながら、自分も一緒にやっている気持ちになっている。 ・自分なりの方法を試し、うまくいかないと教師に助言を求める。 ・教師の問いかけから、形を書く方法に気付く。 
M児はできあがった箱を教師に見せ、「まず数字書かなくちゃ。」と言う。教師は「N君と相談して。」と声をかける。M児はN児に「僕先に書いていい？」と聞き、小さな紙に１枚ずつ１～６まで書いてから、半分に折り曲げる。M児は「ねえN君、６までにしよう。僕ちゃんと６まで書いた。」と伝える。N児は「分かった、いいよ。じゃあ、僕も！」と言い、別の小さな紙に数字を書く。「折って入れていいかな？」と聞くが、M児は首を振り「待って！」と言う。M児はホチキスを２つ取ってきてN児に渡す。２人は半分に折った紙が開かないようにホチキスで止め、箱の中に入れる。N児は「次、商品を作るだけだね。」と言い、使った物を片付ける。	・自分で穴を開けられたうれしい気持を教師に伝えようとする。 ・教師の言葉を受けて、自分がやりたいことをY児に言葉で伝える。 ・次の手順を言葉にし、自分で確認している。 ・N児はM児の考えを受け止め、同じように動く。 ・くじが開かないようにホチキスで止めることに気付く。 ・N児は次の動きをM児に確認してから動こうとしている。

《 考 察 》

○M児をとらえる観点から

［状況のとらえ方］

- 前日の遊びを引き続いて楽しもうとする姿から、幼稚園生活に以前よりも長い見通しをもてるようになってきている。
- 友達の店の様子を見て必要な物を選び、自分たちの場を作るなど、周りの様子に目を向けている。
- くじの箱を作ろうと自分なりにいろいろな方法を試すが、うまくいかないと教師に助言を求めるなど状況に応じた行動の仕方が分かっている。

［自分の表し方］

- 店に必要な物を考えて一緒に遊ぶ友達に伝え、困った時は教師に助言を求め、自分の考えやイメージに取り入れ、試したり工夫したりしてやり遂げようとしている。

［人とのかかわり方］

- 自分ができたことを教師に伝えることで、満足感を味わっている。また、教師の言葉を受けて、N児に確認するなど、教師の言動を意識している。
- N児が自分を受け入れてくれるので、自分の思い通りに遊びを進めている。
- N児はM児の言葉や動きを受けて、自分も同じように動いている。N児にとってM児は経験の幅を広げてくれる魅力的な存在だと思われるので、現在は不満は感じていない。

○集団をとらえる観点から

- 気の合う友達と一緒に遊びを続け、他の遊びをしている友達の面白そうなところに目を向け、自分の遊びに取り入れようとしている。
- 無作為に2チームに分かれた『ジャンケン鬼』では、勝敗に対する意識から人数の差に気付き、みんなに伝えようとする幼児もいる。
- 昼食時のトラブルでは、学級の友達の様子に対して関心をもってかかわろうとする幼児とあまり関心をもたず、自分からはかかわろうとしない幼児がいる。

［教師の役割］

- 自分なりに考えて工夫するようになってきているので、はっきり自分の考えを表現する幼児だけでなく、それぞれの幼児に自分なりの考えがあることを受け止め、一緒に遊んでいる友達の考えやイメージに気付かせていく。また、幼児同士が互いに共感し受け入れ合っている姿を認め、友達の考えやイメージを受け入れることによって遊びがより面白くなり、仲間と遊びを進めていく楽しさを味わえるようにする。
- 遊びの中で考えやイメージが細かく具体的になってきているので、必要な素材を一緒に考えたり、作り方を工夫したりする。試行錯誤する時間を保障するとともに、他の遊びをしている幼児にも知らせ、互いに刺激し合っていけるようにする。
- 様々な場面で友達と互いに意見を伝えたり受け入れたりしていかれるように、一人一人の幼児が学級の中で存在感を感じられるような集団遊びを意図的に取り入ていく。
- 友達が困っていることや気付いたことに関心の薄い幼児がいるので、友達の様子に関心がもてるように、状況に応じて知らせたり気付かせたりしていく。

【事例６】　友達から刺激を受け自分の課題に挑戦していった事例　（９月～１０月上旬）
<考えられる主な教師の役割>個々の努力を認め合い、励まし合う機会をつくる。

学級の友達が竹馬に取り組み始め、次々と乗れるようになるが、O児と他３人はまだ乗れない。その中の一人が毎日黙々と練習し、とうとう乗れるようになる。

それを見て、O児は自分から竹馬を持ち出す。教師に竹馬を支えられ、すこしずつ、前に足を出すこつが分かってくる。

教師が設定した竹馬で挑戦していることを互いに見合う場面で、O児は、「もうすぐ歩けそうだ」「もうちょっと倒してごらん.」と友達に応援されたり、見本を見せてもらったりし、とてもうれしそうな表情になる。

その日から、O児はほぼ毎日自分から竹馬を持ち出して長い時間取り組むようになる。その姿を周囲の友達に認められると、ますます張り切って取り組む。歩ける歩数が増え、友達がやっている後ろ歩きやジグザグ歩きなどに挑戦するようになった。また、まだうまくできない友達にやり方を教えたり、励ましたりするようになった。

《考　察》

○O児をとらえる観点から

［状況のとらえ方］

・今まで竹馬ができなかった友達ができるようになった姿を見て、自分もやればできることを感じ取っている。

［自分の表し方］

・始めは自分の課題として受け止めなかったが、友達の刺激を受け、認められることで、自分の課題として受け止め、意欲的に自分なりの目当てをもって取り組むようになった。

［人とのかかわり方］

・周囲の友達に自分の取り組む姿を認められ、友達と一緒にする楽しさを味わうことで、友達を励ましたり、教えたりするようになっている。

○集団をとらえる観点から

・竹馬にはそれぞれの取り組みの段階があることが分かり、それぞれの友達が一生懸命取り組んでいることを認め、応援しようという雰囲気が学級の中にある。

［教師の役割］

・それぞれの幼児が自分なりの目当てをもてるよう言葉をかけるとともに、友達が取り組んでいることを周囲の幼児に伝え、互いに見合う場を設け、個々の成長が学級全体に伝わるようにする。
・それぞれの幼児が取り組んでいる段階が違っても、それぞれが自分なりに考えて頑張っているところ、努力しているところをとらえ、取り組みの姿を認めていく。
・竹馬が不得意な幼児にも、別の場面で学級の中での存在感が感じられるような機会をつくり、友達同士がそれぞれの多様なよさに気付くようにする。

Ⅳ　まとめと今後の課題

1　発達に応じた教師の役割

本研究を通して私たちは、幼稚園での集団生活の中で、一人一人の幼児の状況のとらえ方や自分の表し方は様々であるが、幼児が自分なりの幼稚園という生活の場の状況のとらえ方を基に考え、自分の表すことで人とかかわる姿が変容していくことが分かった。

個をとらえる観点と集団をとらえる観点から事例を分析・考察することを通して明らかになった教師の役割を発達の姿に沿ってまとめると以下のようになる。

(1)　3歳児

〈個をとらえる観点から〉

o 幼児は、初めての幼稚園という集団生活の場で、教師という新しい存在に気付き、この教師の動きや言葉を通して、幼稚園という生活に慣れていく。そこで、教師の発する声の大きさ、動きのテンポ、顔の表情、醸し出す雰囲気などが幼児にとって安心できるものであることが大切である。また、教師の支えを感じながら、園生活の中で、自分でできることが増えていくことに喜びの気持ちをもてるよう育てて行く必要がある。

o 自分の感情をありのままに出しながら、自分のペースで動こうとする。そこで、一人一人の幼児の気持ちや状況のとらえ方をそのままに受け止め、その時々の幼児の思いに添っていくことが大切である。また、幼児の要求に応えながら「自分も○○をしたい」という新たな思いや自分なりの考えを引き出していくことが大切である。

o 3歳児は自分にとって必要と感じる大人の存在を求めるとともに、遊具や玩具などの物を介して、他児の存在に気付いていく。そこで、教師は、幼児にとって自分のことを分かってくれる人、困ったときには自分を助けてくれる人、という存在になる必要がある。また、幼児は、始めのうちは自分の思いどおりにならない存在と感じる他の幼児とのかかわり方を教師との信頼関係を基に身に付けていくので、幼児同士がかかわっている場面で楽しさを感じられるような援助をする必要がある。

〈集団をとらえる観点から〉

o 集団のつながりという意識は少なく、始めのうちは教師に対する興味や関心から集まり、次第に同じ場に集まる者同士として他の幼児を意識するようになってくる。そこで、教師は幼児一人一人との信頼関係を丁寧につくりながら、みんなで一緒に集まると楽しいことがあるという経験を積み重ね、一人一人の幼児が自分がこの学級にいてよかったと感じることができる学級の雰囲気をつくっていくことが望ましい集団を育てる基盤となる。

⑵　４歳児

〈個をとらえる観点から〉

o 周囲の状況が必ずしも自分の思いどおりにならないことや友達の思いと自分の思いとの違いなどが分かってくる。そこで、周囲の状況に目を向けたり、友達の気持ちに気付かせたりするために、遊びや生活経験を豊かにし、友達に関心をもち、かかわりの楽しさが感じられるように遊びの場の設定を工夫したり、友達の思いや考えに目が向くような援助を工夫したりする。

o また、生活の流れや生活に必要なことが分かってくる。そこで、生活に必要な行動について、自分なりに意味が分かって行動できるように援助していくことが必要である。

o 自分の思いや考えをもち、相手に伝えようとするようになる。そこで、幼児の思いや考えが目に見える形で実現し、具体的に相手に伝わるような素材や遊具を提示したり、自分の思いを自分なりに考えて動きや言葉で表していけるように、様々な表現方法を知らせたりしていく。

o 友達とのつながりを楽しんで遊ぶようになる。そこで、友達と楽しさを共感できる機会を多くもてるように遊びの場づくりや環境の再構成を工夫し、遊びが充実する援助をする。また、遊びの中での友達との葛藤体験の機会をとらえ、それぞれの幼児の思いを受け止めた上で、友達の思いに気付き、自分の思いの出し方を考えていけるようにしていく。

〈集団をとらえる観点から〉

o 学級の様々な友達の様子に気付き、つながりを感じられるようになってくる。そこで、一人一人の幼児のよさや持ち味を大切にする雰囲気を作り、みんなと遊ぶと楽しいと思えるような活動を取り上げる。
また、みんなで一つのことをやり遂げたり、一つのものを作り上げたりしていく楽しさが味わえる活動を多く取り入れ、学級の一員としての存在感を感じられるようにしていく。
その際、集団の中で一人一人が生き生きと行動できるように、それぞれの幼児の興味や関心、行動の仕方の特徴などをとらえて、環境の構成や遊びの内容を見直し、工夫していくことが大切である。

(3)　５歳児

〈個をとらえる観点から〉

o 周囲の状況を判断し、生活の見通しがもてるようになってくる。そこで、一日の流れだけでなく、長期の見通しがもてるように、何をしたらよいか具体的に伝えたり、整理したり問題解決の方法を共に考えたり、生活者としての知恵を伝えていく。

o 興味をもったことに、自分なりに目的をもって追究したり探求したりするようになる。そこで、やりたいことを考えながら繰り返し試したり工夫したり挑戦したりしていけるような場や時間の確保をしていく。また、自分たちで遊びが進められるように、目的にあった素材や用具を選び、用具を使いこなせるような環境を共につくっていく。また、やり遂げた満足感を受け止め、自分に対して信頼感がもてるように成長を共に喜び合う。

o 友達同士、互いに自分の思いや考えを伝えたり受け入れたりして遊ぶようになってくる。そこで、遊びの中で互いの思いや考えを出し合い、失敗や思い通りにならない経験もしながら、満足感や充実感が味わえるような取り組みのできる環境の構成や働きかけを工夫する。その中で、互いのよさに気付き、協力する姿を取り上げ、喜びを実感できるよう援助する。

〈集団をとらえる観点から〉

o 学級の中で一人一人のよさを認め合い、互いの成長を感じるようになる。そこで、仲間と力を出し合って取り組み、達成感を共にできるような活動を取り入れていく。
また、一人一人の幼児がよさや力を発揮し、互いに認め合えるような機会を設け、それぞれの学級の一員であることの満足感や充実感が味わえるようにする。

2　今後の課題

私たちは、この研究で、集団とのかかわりの中で自分で考えて行動する幼児の発達の姿を「個をとらえる観点」と「集団をとらえる観点」の両面からとらえ、教師の役割を探ってきた。その中で、幼児の発達に沿った「状況のとらえ方」、「自分の表し方」と「人とのかかわり方」についてはとらえることができたが、「自分で考える」幼児の姿については、今後も更に検討し、幼児が自分なりに考え、他者とのかかわりを深めていくための教師の役割について、今年度の研究の成果を生かして研究を深めていきたい。

資料【発達の姿】

入園（3歳）

個をとらえる観点

状況のとらえ方

・幼稚園に母親がいないことが分かる。
・教師が自分だけの先生ではないことを感じる。
・先生の表情を見てやってはいけないことがあることを感じる。
・困ったときには教師が自分を助けてくれる存在であることを感じる。
・教師や周りにいる友達が何をしているか興味をもつ。
・目につく場や遊具の使い方が分かる。
・遊びに必要な簡単な決まりや約束があることが分かる。
・幼稚園は自分の好きな遊びをしてよいところだということが分かる。
・幼稚園の遊具や場はみんなのものだということを感じる。
・身近にある遊具の使い方が分かる。
・幼稚園の生活の流れを感じる
・みんなで集まると楽しいことがあるということが分かる。

自分の表し方

・喜怒哀楽等、その場で感じたことをありのままに出す。
・自分の気に入った遊具や場で遊ぶ。
・色々な遊具や素材にかかわって遊ぶ。
・新しい素材や遊具に興味をもち自分なりにやってみようとする。
・自分の好きな遊びを繰り返す中で自分なりに試したり気付いたりして遊ぶ。
・自分の好きな動きを繰り返す。
・友達と同じ場で遊ぶ中で自分のしたい動きをありのままに表す。
・思いついたことを自分なりにしたり、教師に手伝ってもらったりしながら、実現していく喜びを味わう。
・先生と一緒にしながら身の回りの始末など、自分で出来ることは自分でしようとする。
・身の回りの始末など自分が出来ることは、自分でしようとする。
・自分のことは自分でしようとする。

人とのかかわり方

・教師の動きや具体的な言葉に興味をもつ。
・教師がいると安心して過ごす。
・自分の好きな友達とは遊具などを一緒に使って遊ぶ。
・他児の存在に気付く。
・気に入った友達を遊びに誘ったり、登園してくるのを待ったりする。
・気に入った友達ができ、同じ場で遊んだり過ごしたりする。
・同じ場でやりとりしながら遊ぶ中で友達とかかわる楽しさを味わう。
・周りの友達の動きや持っている遊具に関心をもつ。
・友達と同じ物を持ったり、同じような動きをしたりすることを喜ぶ。
・順番や交代など簡単な遊びの約束ごとが分かり、友達と遊具などを貸し借りして遊ぶ。
・自分の思っていることを言葉や動きで表し、受け入れられたり伝わったりすることをうれしいと感じる。
・相手の動きや話などから、相手にも思いがあることに気付く。

集団をとらえる観点

集団の育ち

・楽しそうな動きをする学級の友達に興味をもつようになる。
・みんなで集まることの簡単な意味が分かり誰の隣でも嫌がらずに座ろうとする。
・みんなで集まる時に好きな友達の隣に座りたがる。
・先生と一緒に絵本を見たり手遊びをしたりする中で、みんなと一緒に過ごす楽しい雰囲気を感じる。
・集まると楽しいことがあるということを感じる。
・みんなと同じ動きをする楽しさが分かり一緒に動くことを楽しんでいる。
・みんなと一緒にする遊びに参加する楽しさを感じる。
・みんなで一緒に過ごす時には決まりがあることを感じる。
・他学級の幼児が入ってくると「だめ」と言うなど学級としての意識をもつようになってくる。
・一人一人に声をかけると集まるが、学級としての意識はみられない。
・教師の呼びかけで集まるようになる。

個をとらえる観点	状況のとらえ方	・近くで他の幼児がどんなことをして遊んでいるか分かる。 ・学級の何人かの友達の特徴が分かる。 ・自分の思うようにいかないこともあることを感じる。 ・遊びに必要な遊具や用具、場を自分で選んだり使ったりしてよいことが分かる。 ・自分とは違う考え方や行動をする友達がいることに気付く。 ・周りの状況が見えてきて、自分にできることが分かる。 ・生活の流れや約束等のルールが分かる。 ・交代・順番で待つことが分かる。 ・生活の中の仕事では、交代したり分担したりすることが分かる。 ・教師の表情・態度から行動の善し悪しを感じる。
	自分の表し方	・教師や気に入った友達に自分の気持ちを態度や言葉で表す。 ・思い通りにならないと、泣いたり、怒ったりしながら自分の思いを主張する。 ・相手の反応を感じながら態度だけでなく言葉で自分の気持ちを伝えようとする。 ・友達に自分の思いを伝えたり、親切にしようとしたりする。 ・新しい場や遊びに興味や関心をもち自分なりに遊ぶ。 ・遊びの中でいろいろなイメージをもちながら、なりきって遊ぶことを楽しむ。 ・生活の流れやルールを知り、守ろうとする。 ・自分のやったことに対して、人に認められたりほめられたりすることがうれしいと感じる。 ・遊びに必要な遊具、用具、材料などを選んで使うようになる。
	人とのかかわり方	・教師の動きや言葉に興味をもって、自分からかかわろうとする。 ・教師の言動をもとに、自分の行動を変えようとする。 ・困った時に教師に頼り、解決方法に気付く。 ・友達に自分の気持ちを出して遊ぶ。 ・友達と気持ちのつながりを楽しんで遊ぶ。 ・自分が態度に表したことによる友達の反応に気付く。 ・親しい友達と一緒に遊びたい気持ちをもつ。 ・友達と遊ぶ中で、悔しさや悲しさ等を味わう。 ・遊びの興味で集まった幼児同士で遊びの楽しさを共感する。
集団をとらえる観点	集団の育ち	・学級の中で自分のやりたいことが認められる喜びを感じる。 ・学級の友達のよさを感じるようになる。 ・学級の一員としてのつながりを感じる。 ・友達や先生と一緒に活動することの楽しさを共感する。 ・学級のみんなで声を合わせる楽しさなどでつながりを感じるようになる。 ・他の場所で遊んでいる友達の遊びに関心をもち、遊びが伝わることがある。 ・みんなと一緒に過ごすときには、自分の思い通りにはならないこともあるということが分かる。 ・簡単なルールのある遊びでは、競い合う楽しさを味わったり、同じチームの友達を応援するなどの仲間意識をもつようになったりする。

修了

個をとらえる観点

状況の捉え方

・相手の気持ちや状況に応じて自分はどうしたらよいのかが分かる。
・修了が近づき小学生になることに期待をもつようになる。
・学級や園の友達がどこでどのように遊んでいるかが分かる。
・目的に合った遊具や用具・素材等の正しい使い方が分かる。
・やりたいこととやらなければならないことを考え、今はどちらが大切か分かる。
・時間に対する感覚が身に付いてきて時計やカレンダーに関心をもつようになる。
・役割を分担したり交代したりする中で任された仕事の大切さや必要性に気付く。
・楽しくするためには互いに我慢したり譲り合ったりしなければならないことが分かる。
・周囲の状況を判断し、生活に見通しをもち、今は何をしたらよいかが分かる。

自分の表し方

・相手の特徴が分かり自分の気持ちの表し方出し方を変える。
・自分の思いや考えを相手にわかるように伝える。
・苦手なことも友達のまねをしたり教えてもらったりしながらやってみようとする。
・友達の動きに対応した動きをしたり自分の気持ちをコントロールしたりする。
・自分のやりたいことに対しては最後までやっていこうとする。
・自分の課題に向かって見通しをもって、自分なりに取り組もうとする。
・自分たちの遊びの場や空間を生かしたり、工夫したりして遊ぶ。
・先行経験や友達や教師の助言を生かしながら、失敗しても繰り返し挑戦し、達成感や満足感を味わう。
・興味をもったことから自分なりに目的をもち追求したり探求したりして取り組む。
・係の仕事などしなければならないことは必要性を感じて進んで行うようになる。
・新たな情報に興味・関心をもって遊びの中に取り入れようとする。
・学級全体の課題や生活の流れに対して見通しをもち、何をしたらよいかが分かり、自分から行動する。

人とのかかわり方

・イメージを実現するために試行錯誤し、必要なときに教師の援助を求める。
・友達や教師から遊びに必要な情報を得て、遊びに取り組む。
・友達に自分の考え伝えたり、相手の思いや考えに気付いたりして相手を受け入れようとする。
・友達と競い合ったり、教え合ったりしながら互いのよさを生かし協力しようとする。
・互いの気持ちを出したり受け入れたりしながら、気の合う友達と一緒に遊びを進める。
・親しい相手の気持ちを推し量って思いやりのある行動をする。
・友達が自分の気持ちに共感したり、励ましたりしてくれることで友達関係を深めていく。
・友達と一緒にやり遂げた満足感・成功感・充実感を味わい、共感する。

集団をとらえる観点

集団の育ち

・他のグループの遊びを自分たちの遊びに取り入れようとする。
・グループの友達と簡単なめあてに向かって取り組もうとする。
・チームを作って遊ぶ中で仲間意識を感じたり相手チームと競い合う楽しさを感じたりする。
・友達の気持ちに気付き友達同士で励ましたり慰め合ったりする。
・遊びの中でのトラブルを自分たちで解決するようになる。
・学級の中で一人一人のよさを認め合い互いの成長を感じる。
・グループや学級全体の課題が分かり友達に言われたり、教師に促されたりしながら取り組んでいく。
・遊びや生活のルールをみんなで考えを出しながら作っていく。
・先行経験や友達のよさを生かしながら自分たちで遊びや生活を進めていく。
・園生活の中で必要な仕事の内容が分かり自分たちで取り組もうとする。
・学級の一員として学級の課題に進んで取り組もうとする。
・学級の課題を友達と協力して最後まで取り組もうとする。